



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



昭和大学ホームカミングデーが開催 されました 歯科矯正学教室 榎 宏太郎



去る10月11日(日曜日), 旗の台の50年記念館におきまして, 第二回昭和大学ホームカミングデーが開催されました。

このホームカミングデーとは, 本学卒業生を中心

に, さらに旧交を温め, 現在の母校の姿を知ってもらうとともに現役の学生との交流も深めてもらうという企画です。医歯薬保健学部の各同窓会の合同で行なわれ, 旗が岡祭・いぶき祭に合わせて開催されます。

毎回, 卒後50年目と25年目の卒業生が招待され, 今回は, 医学部27回生, 薬学部15回生, 歯学部2回生の皆さん約150名が参集されました。

式典は, 昭和大学管弦楽団の歓迎演奏にはじまり, 細山田明義学長のご挨拶, 小口勝司理事長, 新井平八郎薬学部同窓会長からのご祝辞を賜った後に, 卒業後の社会への貢献に対して, ゴールデン表彰, シルバー表彰の授与が行なわれ, 各学部の代表者に記念の楯が渡されました。そして, 招待クラスを代表して甲斐祥生先生(医学部27回生)からご挨拶頂き, 全員で校歌を斉唱して閉会されました。

この式典に引き続いて懇親会も催され, 各学部同窓会長による鏡開きからスタートした会食は久しぶりの再会を祝う同窓生で大いに賑わいました。

今まで, 学部ごとに同窓生が集まる機会はあるけれども, 全学部合同でというのは, 連絡や日程調整等からかなり難しかったと思われます。しかし, このような企画, 機会がありますと, 富士吉田で一緒だった仲間と実に30年ぶりで会える訳であります。懐かしさと思い出話に時の流れを感じ, ほぼ全員が口にする健康に関する話題には戦友のような共感を覚えました。式典で学長先生や理事長先生から, 『在校生は卒業生の後ろ姿を見て育ち, 母校への誇りと自らの自信を

得る』というお話を頂きましたが, 母校で教鞭を取っている身にはまさにそう感じられます。将来, あのような医療人になりたいと願う心は, 知識や技能の伝授のみでは不可能であります。この精神的な歴史の積み重ねが大学という機能組織の有する層の厚さに関係しているのではないのでしょうか。

また, 医歯薬保健医療のチーム医療とは何か, 大学と開業されている先生方との連携とは何か, 医療人の育成としての大学の使命とは何か, それらの答えとして文字で表されるものは日頃からよく見てはおりましたが, その内にあるもっと深いものを考えさせてくれた一日でもありました。

田中一正委員長をはじめとする実行委員会の方々と早朝から準備に励まれた事務の皆様にあらためて感謝申し上げます。

ありがとうございました。



受賞

広報委員長 井上 富雄

・鈴木 大(口腔生化学 大学院4年): 9月11-15日に開催されました「第35回米国骨代謝学会」におきまして「Shun-ichi Harada Young Investigator Award」を受賞されました。

・安原 理佳(口腔生化学 助教): 9月11-15日に開催されました「第35回米国骨代謝学会」におきまして「Young Investigator Award」を受賞されました。

・吉村健太郎(口腔生化学 大学院4年): 9月11-15日に開催されました「第35回米国骨代謝学会」におきまして「Plenary Posters」を受賞されました。



歯学部オープンキャンパスが開催 されました 入試常任委員 五十嵐 武



去る9月13日(日曜日)の午後1時から旗の台校舎で歯学部オープンキャンパスが開催されました。開会に先立ち歯学部紹介ビデオならびに富士吉田キャンパス紹介ビデオが上映されました。

午後1時からの全体説明会は、宮崎歯学部長の挨拶に始まり、昭和大学歯学部教育の特色について山本教授から説明があり、次いで本学の特色の一つである4学部合同の1年次富士吉田キャンパスでの学生生活(教育、寮生活、年間行事など)について、堀川教授から説明がありました。さらに、平成22年度入学試験の概要および小論文、学力試験、面接試験の傾向と対策についての説明が五十嵐教授によりなされ、参加した生徒と父兄は熱心に耳を傾けていました。その後、休憩を挟んで、新谷教授による模擬授業「口の中にできる病気と歯科医師の役割」がなされ、参加者は皆、熱心に聴き入っており、中には真剣にノートを取りながら受講する生徒の姿も見受けられました。

また、午後3時から、入試常任委員による個別相談の場が持たれ、多くの生徒が質問・相談に訪れ、午後4時に無事終了いたしました。

キャリア向上のための講演会が行 われました 歯科病院長 岡野 友宏

昭和大学では昨年、キャリア支援室(<http://www.10.showa-u.ac.jp/~career/>, career.s@ofc.showa-u.ac.jp)が発足したのをきっかけに、これまで学生部などが担当してきた学生の卒業後の進路支援や研修医や若手歯科医の就職斡旋を、大学としてキャリア支援室に一本化することになり、それに関わる講演会をこれまでも開催してきました。今回は歯科病院で開催することになり、52名の出席者がありました。まず支援室長である久光正先生(医学部第一生理学教授)から、支援室の趣旨を非常に分かりやすく説明して頂きました。講演は歯学部6回生で、現在、聖路加ガーデン1階で開業されている馬見塚賢一郎先生から、「歯科医院の現状とこれからの歯科医」という講演を頂き

ました。先生の人間性がよく分かる大変よい話を聞くことができました。先生の地道で勤勉な生活態度に基づく志の高い歯科医療への思いは多くの若い先生方の共感を得たことでしょう。なお本院は職場を一旦離れ、再就職を希望する女性歯科医師の再教育の場を検討しています。これも支援室の一環した活動になるでしょう。最後に司会の労をとって下さった歯学部同窓会長の飯島裕之先生に感謝申し上げます。



第31回米国骨代謝学会に参加して

大学院4年(機能再建学専攻) 鈴木 大

9月11日から5日間にわたり、アメリカ・コロラド州のデンバーで開催された第31回米国骨代謝学会(The American Society for Bone and Mineral Research; ASBMR)に参加いたしました。ASBMRは世界最大規模の骨代謝学会であり、毎年開催されています。今回の会場はコロラド会議場で、口演発表が約1300演題、ポスター発表も1300演題以上と非常に活気がありスケールの大きな学会という印象を受けました。発表は基礎的なものから臨床に関するものまで多岐に渡り、高度な研究内容を多く勉強することができました。昭和大学からは歯科薬理学教室の天野均先生、顎口腔疾患制御外科学教室の佐藤華先生、歯科補綴学教室の館慶太先生、口腔生化学教室の安原理佳先生(米国・トーマスジェファーソン医科大学留学中)、吉村健太郎先生、鈴木大の合計6題の発表がありました。デンバーはロッキー山脈の麓にあり、標高が約1マイル(1600メートル)に位置することから、マイル・ハイ・シティと呼ばれ、朝晩は冷え込みが厳しい半面、日中の日が差す時間帯は少し汗ばむほどで、山梨県の富士吉田を思い出させる気候でした。来年のASBMRはカナダ・オンタリオ州のトロントで行われます。



ポートランド州立大学サマープログラムに参加して 歯学部1年 大原 千明

私は昭和大学主催の「ポートランド州立大学 (PSU) サマープログラム」に参加し、7月21日から8月18日までの4週間、アメリカのオレゴン州ポートランドに滞在しました。

ポートランドで見学させていただいた病院はどこも高級ホテルのような雰囲気、小児科には子供向けに可愛らしい装飾が施されており、アメリカの医療施設の充実ぶり



(写真は見学した病院の待合室)

に目を見張りました。しかしミールサービスボランティアに行ったホームレスシェルターでは、全く違う雰囲気を感じました。オレゴン州はアメリカ国内では豊かな州ですが、そこにもはっきりとアメリカの明と暗が存在したのです。その後、社会保障や医療制度についての講義を受けることで、アメリカ全体が抱える深刻な医療問題やオレゴン州の税収体系などをより深く理解することができました。医療系カリキュラムでの経験は、私にとって新鮮で有意義なものとなりました。

このプログラムに参加したことで、医療人としてのスタートラインにいる私の視野は、よりグローバルな方向へ広がったと思います。実際にアメリカで開業されている日本人歯科医師の活躍は、とても眩しかったです。ホームステイや寮生活、アクティビティーでは、アメリカの学生生活や文化を実際に体験することができ、シアトルマリナーズ観戦で「生イチロー」の活躍を見られたことは一生の思い出です。そして、一緒に



参加した12人の同級生とは沢山の感動を共有し、かけがえのない仲間となることができました。

この素晴らしいプログラムに参加する機会を支えて下さった昭和大学の先生や事務の方々、お世話して下さいました PSU スタッフやホストファミリー、支援してくれた家族・・・私を支えてくれた全ての人たちに感謝しています。

歯科医療研究会の無歯科医村での活動 歯学部4年 上田 英範

私たち歯科医療研究会は、1983年より無歯科医村で口腔保健活動を行っています。4年前より毎年夏に長野県の根羽村にて、村役場の方とOB・OGの先生方のご協力のもと活動を行っています。



根羽村(人口約1100人)は数年前から無歯科医村で、村外の歯科医院はなかなか予約が取れないそうです。また高齢者には無歯顎の方が多く、同じ義歯を十何年間も使っている方も見受けられます。

今年度は部員が18名、歯科医師が3名参加し、2日間で計54名の方においでいただきました。過去4年間を総合すると計115名の方においでいただいています。

主な活動内容は口腔内診査と口腔ケア相談です。診査はOB・OGの先生にお願いしています。口腔ケア相談は学生が行い、歯垢の染め出し液を用いたブラッシング指導や義歯のお手入れの仕方について、来場者さんの口腔内状況に合わせて説明しています。



また毎年、摂食嚥下に関する講演を行っています。今年の講演は学生が行い噛むことの重要さを、トロミを付けたジュースの試飲や食前体操の体験を交えてお話ししました。

学祭での口腔保健活動と比べて環境や年齢構成、食生活の違いなどを体感することができ、貴重な体験をさせていただいています。今後もこの活動を続けていきたいと考えています。

9月1日付

昇任・採用 広報委員長 井上 富雄

渡辺 友希:助教(歯科医学教育推進室)
二木 克嘉:助教(歯科矯正学)

小児口腔機能ワークショップに参加

して 口腔リハビリテーション科 綾野 理加

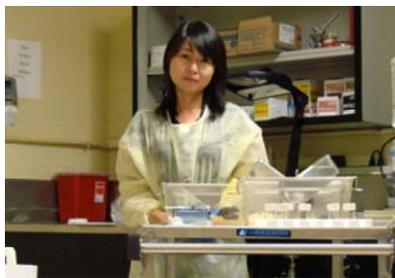
9月24日からの3日間、テキサス州ヒューストンで開催された Neuro-Developmental Treatment Association 主催の小児の摂食機能ワークショップに参加しました。参加者は約40名で職種は言語聴覚士と作業療法士、歯科医師は私一人でした。参加者に歯科医師がいないのは、アメリカでは摂食・嚥下障害の仕事が言語聴覚士が行ない、小児に関しては作業療法士も行なっているからでしょう。いつものことですが、なぜ歯科医師が摂食の仕事をしているのかとの質問を受けることから会は始まりました。

内容は、小児の発達(摂食機能のみならず、粗大運動、呼吸、言語など)、摂食時の姿勢、食事介助法、感覚入力についてなどの講義と実習、多くの症例供覧、2名の患児とご両親の協力を得た実際のセッションと盛りだくさんでした。感覚、特に触圧覚を受け入れる為の方法など、症例を見ながら考えを整理することができました。また、小児の摂食機能は口腔機能のみならず、全身の発達、感覚の入力、親子関係など様々な要素が相まって発達するものであることを再確認し、有意義な3日間を過ごすことができました。

海外共同研究を行いました

口腔解剖学教室 野中 直子

平成21年8月9日より8月21日までの2週間、米国・ミズーリ州にあるセントルイス大学医学部内科学教室、セントルイスVAメディカルセンターにおい



て、Prof. William Banks の指導のもと血液脳関門プロジェクトの共同研究を行ってまいりました。

私は平成13年7月より2年間、同大学内科学教室・老年医学部門の客員研究員として留学し、帰国後は Adjunct Assistant Professor となりました。帰国して6年が経ちましたが、年に1~2回、2~3週間の滞在をして研究を継続し、共同研究者や仲間との交流を深めております。

今回の渡米では、ペプチドの鼻腔内投与を行って脳への移行を調べ、将来的には脳疾患での創薬を目指しているプロジェクトの一端を行ってまいりました。2週間という短い滞りでデータを得ることはかなりのプレッシャーがかかりますが、朝から夜まで実験に集中でき、どんなに忙しくても幸せに感じます。“久しぶりに研究に来た。”という感じは全くなく、私の中でセントルイスでの研究は、信頼できる仲間にもまれ、落ち着いて研究できる場所にいつの間にかなっていまし

た。滞在最終日は、バンクス教授の計らいで、ラボの皆



で大学近くのレストランにお昼を食べに行き、全員がワイワイと自由な雰囲気の中で研究の話に花が咲きました。このことは何でもないことのように見えますが、実は研究を続けて行くうえで非常に大切な過程であり、良いアイデア、ヒント、技術などの点で得るものが多いと思います。これからもセントルイスで学んだこの大切な過程を取り入れて、質の高い研究を目指して共同研究を続けていきたいと考えております。

若手研究(スタートアップ)の交付が内定しました

歯学部研究活動委員会委員長 上條 竜太郎

9月2日、日本学術振興会は平成21年度科学研究費補助金(若手研究(スタートアップ))の交付内定(新規課題分)を公表しました。本研究費は若手研究者が自立して活躍できる機会を確保し、若手研究者の活動を活性化するため、大学等の研究者の職に就いたばかりの者に対し、研究活動のスタートアップのため、研究費の支援を行うことを目的とする研究種目です。歯学部は3件(大学全体で4件)が内定を受けました。内定を受けた研究者は佐藤 華(顎口腔疾患制御外科学)、友安洋子(歯科矯正学)、鈴木一成(歯周病学)です(敬称略)。今後の研究成果に期待致します。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 11月 2日(月):創立記念日代休
- 11月 8日(日):推薦入学試験,編入学試験
- 11月29日(日):歯学部進学説明会
- 12月 5日(土):第29回昭和歯学会例会

診療統計(平成21年9月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,708	726.4	696.7	700.0
入院患者	443	14.8	17.4	12.5

編集後記

口腔生理学教室 中山 希世美

急に寒くなってまいりました。皆様体調を崩されぬようお気をつけ下さい。今月も、お忙しい中原稿を執筆くださいました諸先生方に厚くお礼申し上げます。